



### れいほくとは…

高知市の北の山間地に位置する、嶺北地域。大豊町、本山町、土佐町、大川村、旧本川村の5つの町村からなるこの地域は、若者が少なくお年寄りが多い過疎地域だが、緑と新鮮な空気に囲まれた自然豊かな町。そして、通りすがりの人でも気持ちよく挨拶をしてくれる人情味溢れる町……。



### わたしのまちを 発信したい

「住んでるところは過疎・高齢化が進んでるけど、それでもいいと思う。住んでいて楽しいし、よそから人も来てくれる」  
こう語った、高知県の町観光協会の田岡さん。

高知大学の自律協働入門は、1年生限定の「生き方」をテキストにした授業だ。吉村香野さんは、この授業を受講し、県内外で活躍する社会人に出会う。その中でも山や川の自然や土佐和紙のような伝統文化をうまく組み合わせ、外に向けて発信している田岡さんの生き方、仕事ぶりに感動した。

「こんな人がおるがや〜！私も大好きな高知を発信するよいうな仕事したい」

夏休みに何かしたいと思っていたところ、高知県嶺北地方を舞台とした「いなかインターンシップ」に出あった。参加の相談をしたとき、いくつかあるプロジェクトから、犬小屋の本づくりというプロジェクトが目にとまった。

「高知のおもしろいものを、全国に発信できる！」

### 「ありえない〜！」 だらけの嶺北

高知市内から原付で2時間半。着いたところは、里山の畑にあるビニールハウス。中をのぞくと木材がたくさん並び、10人近くの大工さんが木の小屋を作っている。ここは犬小屋製作工房K。オーダーメイドの犬小屋をインターネットで注文を受け全国に売っている工房だ。Uターンでふるさとに帰ってきた川村さんが、「来年は成年やから」と思い立って作りはじめた犬小屋が大ヒットした。

吉村さんが参加したインターンシップのミッションは、犬小屋の作り方の本を企画・制作し、犬小屋製作工房Kの高品質な犬小屋を発信することだ。「犬小屋作り方」と検索し、うちのHPに来る人がかなり多い。現在犬小屋を注文している人たち以外に、もっと購買層が広がらないか」という工房K代表の川村さんの想いから、このプロジェクトがスタートした。

### つながるアイデア

本づくりに向けて、まずは実際に犬小屋づくりを細かく取材した。工房Kの大工さんの側でスタンダードな中型犬の犬小屋の作り方をメモに落とした。はじめてのことだらけだったが、1つ作ると、犬小屋の構造や仕上げ、専門用語が分かり、川村さんと大工さんとの共通語が増



地域チャレンジ1 高知

# 豊富な資源を 商品に！

地域ビジネスを  
発信する本づくり

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科2年  
吉村 香野 さん

森林率が約90%の高知県嶺北地方。ビジネスをするには一見不利に思われる環境で、大ヒット商品を生み出した経営者がいる。豊かな自然、伝統、景観など、いなかの資源を活かし、商品に変えれば、いなかでもビジネスが成立する。いなかに必要なのは「アイデア」だ。そして、アイデアを生み出すのは人である。若者はその経営者と出会い、いなかの未来に可能性を感じた。そして若者の感性がビジネスと融合したときに、そこにはまた新しい商品が生まれる。

えていった。一つ一つの工程をイラストと説明文で記録した。A5サイズの記録帳は100ページ近くになった。

「ただの犬小屋と思っていたら、犬が快適に過ごせるような仕掛けがある。木は嶺北産の良質な木材だけ。アイデアがあれば、こんないなかでもおもしろい仕事ができるんだ、と驚きました。でも発想だけに頼るんじゃなく、クレーム0・在庫0という仕事へのこだわりが、いなか発のビジネスを支えているんです」。気づきは、犬小屋の作り方からビジネスの秘訣へと広がっていった。

夏休みが終わると、授業やサークルと並行し本づくりを続けた。春休みにもう一度インターンシップとして本づくりに関わるため、CB1企画立案も受講した。本の企画・編集の過程では、大学で編集を学ぶ学生たちとの共同作業がはじまった。本のタイトルは100本以上考えた。デザインとのやりとりの中で、冊子ではない、作業のしやすさを考慮したデザインにもこだわった。犬小屋の作り方を解説するだけではなく、「川村さんや大工さんの想い、嶺北の魅力を伝えたい」と、おまけ本、制作を提案した。たくさんの方のアイデアをつなぎ、形にしていくなかで、できあがった本は、「愛犬へー木造犬小屋の作り方」と題し、7工程の作り方とおまけ本を化粧箱に入れた。「次はこれ売ること、高知を、いなかのビジネスを全国に発信したい」。吉村さんの挑戦はまだまだつづく。